

## 「キッチンとまと」の再出発

地元生産者の農産物を使い、  
空き店舗有効利用を企図する行政とともに

1995年に設立し、2010年5月から休業していた「キッチンとまと」が新たな店舗に移転して7月28日新規開店しました。

食産業の厳しい現実はこちら数年キッチンとまとの経営も圧迫していました。家賃が高く休業を決断してから「いつ再開するの？」という暖かい言葉をたくさんの方からいただき、再開の場を模索していました。そんな中で、越谷市が空き店舗の有効活用を促し、店舗の改装費用助成と2年間の家賃半額補助の取り組みを始めたことを知りました。

南越谷駅から少し歩く住宅街の一角、昭和の香り漂う癒しのアーケード空間「日の出商店街」の中にその物件はありました。ここでまた、市内生産者の農産物を使ったおいしくて安全なランチを作ろうと、動き出しました。新たなメンバー5人が遠くて通えなくなったメンバーと交代し、7人での再出発に



日の出商店街で、関係者や地域の皆さんを招待してのオープニングパーティーは和やかに開かれました

なりました。これまで環境問題や、市内農家の農産物を利用する取組などを通して頻りに行政との関わりを作ってきた結果でもあると思います。

開店から2か月たち、注文も増えてきました。課題はこの働き方での仲間をもっと増やすことです。

企業組合キッチンとまと 須長こう子  
〒343-0022 越谷市蒲生東町128-13 日の出商店街  
Tel/fax 048-962-4787

新しい  
ワーカーズ  
紹介

## 埼玉葬送サポートセンター

大切な人を送る最後の時、遺族に寄り添うサポーター  
事業が始まりました。

私たちは生活クラブ生協が主催した「自分らしい  
古い支度を考える委員会」で、後期高齢期に必要な医療や介護、成年後見、葬儀やお墓について学びました。特に葬儀に関してさまざまな課題を解決する仕組みが必要であることを確認しました。

その時になって事務的な葬儀のあれこれを決め手配するのは遺族にとって負担です。業者の言いなりになりがちでした。そこで葬儀業者に所属せず、適切なアドバイスと支援ができるサポーター組織を発足しました。

遺族の気持ちに寄り添い、きちんと話を聞き、わからない事にもしっかりと応える。そしてまとまった



無宗教葬の祭壇例



講座講師の佐藤春江さん(左)と  
矢島保子さん(右)

金額が必要になる葬儀料金についても、明朗で正直に丁寧に説明をします。落ち着いて判断するためのサポートをする仕事です。

価値観が多様化している現代、さまざまなニーズに応えるために、葬儀支援のほか、生前相談や、ゆうなぎ学習会への講師派遣をしています。

下記、事務局ではミニ生前相談(要予約ファクス・メールで)の他、もしもの時のお願いノートを販売しています。

企業組合 埼玉葬送サポートセンター 佐藤春江  
Tel/fax 048-963-0030

E-mail sou-sou.saitam@tbz.t-com.ne.jp